

令和5年度プロジェクト研究公募テーマ

プロジェクト研究テーマA

「ESGを考慮したエシカルデンティストリー(Ethical dentistry)を目指して」

趣旨：

ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取った言葉で、投資判断の新たな観点とされている。

一方、エシカル(ethical)とは、「倫理的な」と訳されるが、昨今、この用語は、「地球環境、人、社会に対して配慮された」というニュアンスで使われている。

歯科材料の日進月歩は、結果的に患者さんの満足度を上げることが必要である。また、我々、歯科医師は、口腔の健康状態を、諸検査等も用いて、完全かつ正確に診断し、問題点を明確化にして、最善の治療で解決しなければならない。

さらには、患者さんの定期的な通院で、患者さんの口腔の健康状態の悪化を防ぎつつも、過剰な検査・治療を回避しなければならない。そして、使用する材料・検査・治療法で、患者さんに有害な影響を与えてはならない。

また、昨今のトレンドとも言うべきSDGsにおいては、歯科領域での取り組みが少ないことから、これらへの取り組みも緊喫の課題として捉えるべきである。

本プロジェクトでは、ESGを踏まえたエシカルデンティストリーを念頭に、新しい材料、検査法、ガイドライン、DX等で継続的研究の足場となるもの、また、SDGsとして提案できる研究を公募する。

プロジェクト研究テーマB

「アフターコロナのデンタルフィロソフィの変革と再定義」

趣旨：

昨今、企業フィロソフィという言葉を目にする。これは、企業理念として、企業の在り方や価値観などを明文化したものである。一般的には、創業者の考えをもとに提言され、企業の哲学やDNAとして不変的に受け継がれるものを指す。

一方、この3年間、我々の業界は、COVID-19のまん延で、診療環境整備、予防対策等を暗中模索してきた。

コロナウイルス感染症2019の5類移行となった今、歯科界もこの3年間の事象を歯科的に検証する必要がある。また、国民のマスク長時間着用による口腔環境の変化、ウィルスの影響、表情変化等、検証すべき事項とともに、今後の、歯科としての対応が多くあると思われる。

本プロジェクトでは、アフターコロナのさまざまな事象について検証するとともに、その対応等、次の新たな感染症に備える研究を公募する。